

高津区おはなしアーカイブ

●三田 広吉 (みた ひろよし) さん

昭和10年生まれ 80歳

川崎市高津区上作延在住



◆どんなご家族でしたか

生まれは宮ノ下です。兄弟は男4人、女4人の8人で、上から6番目です。一つ屋根の下に、両親と兄弟の10人暮らしでした。親は小作人、姉たちは奉公という生活で苦勞しました。私の生まれた昭和10年頃は、三田家の畑は山の上、田んぼは自宅の周りに多かったです。

父はネギ作りが得意で、夏はサツマイモやトマトやキュウリを作っていました。小学校5、6年から中学にかけて、下校後はリヤカーで作物運びを手伝ったり、冬休みも夏休みも関係なく牛の世話をしました。それだけ、当時の農家は人手が足りませんでした。父は83歳、母は95歳まで生きました。自分も今80歳ですが、親父以上に生きたいと思っています。今、住んでい

るこの家は昭和36年に田んぼを埋めて建てました。その頃くらいでしょうか、親と一緒に酒を酌み交わす余裕がでてきたのは。

◆子どもの頃の遊びは

冒険が好きでねえ。典型的なイタズラで腕白な子どもでした。木登りが大好きで、山で藤を切ってターザンごっこをしたり、寺の木に登ってよく叱られました。この生まれつきの活発さは、大人になっても草野球や駅伝に発揮されましたがね。

平瀬川にもよく泳ぎに行きました。この川のそばのヨモギを叩いて、女の子とおままごともしましたよ(笑)。でも姉や妹たちとは、一緒に遊ばなかったなあ。姉とは年が離れ過ぎているし、妹も7歳も年下だったからね。この妹は、今73歳ですが、ソフトボールの神奈川代表でオーストラリアに遠征に行ったり、今も監督を務めています。姉たちは私たちの親代わりでもありましたから、「おまえたちは幸せ者だ」とよく言われていました。

6年生になると、多摩川にも泳ぎに行きました。今の国道246のところから多摩川を泳いで渡ってみようということになり、流されながらも、なんとか渡りきりました。

津田山トンネルを抜けて二ヶ領用水まで歩いたこともありますが、子ども心に不気味だなあと思いましたよ。塚を壊したら、中から土器が出てきたことがありますが、

もし、大事にそれをとっておいたら、今は宝物ですね。

◆どんな学生時代を

あの頃は幼稚園というものはなかったですね。小学校は向丘小学校です。同級生は男子30名、女子30名の60名でした。私は、30分から1時間かけて歩いて登校しました。雪の日は寒くて辛かったですね。子どもは長靴など持っていませんから、雪が付かないような高下駄の歯のないのを裸足で履いて、足袋は濡れてしまうので学校に着いてから履きました。足が冷たくてねえ、参りましたよ。

ランドセルなどもない時ですから、風呂敷を使って教科書等を運び、女子はもんぺ姿でした。男子は皆、腕白坊主たちでねえ、ガキ大将もいましたよ。学校でいじめがあっても、上級生が下級生を守る感じでした。私は、どちらかというといじめられる方でしたが、1番上の兄貴はガキ大将でした。

小学校唱歌など、妻は親から聞いたと言っていますが、私は思い出もありません。あの頃は食べるのが精一杯で、勉強する余裕はありませんでした。それに、勉強も嫌いときてるから、得意な教科もなかったねえ（笑）。その代わりといっちはなんです、社会に出て企業に入ってからには頑張っ

て勉強をし、いろいろな資格を取得しました。

60名がそのまま一緒に中学に入学しました。当時は体育の授業など特になかったので、当然運動部のようなクラブ活動もなかったです。でも、あるとき学校が卓球台を買ってくれたのです。教室に余裕がなかったので室内に置くことはできませんでした。が、風のない日に校庭で台を組み立てて使いました。野球は向ヶ丘公園を借りました。卓球好きや野球好きが集まって試合をしましたが、それがクラブ活動みたいなもんです。

中学で忘れられない思い出があります。新制中学の3期生ですが、当時、修学旅行という行事がありました。日光へ1泊2日の旅でしたが、費用が2,500円でした。当時の2,500円ですから、経済的に行けない子も60人中10数名はいました。私もその1人で当然無理だと諦めていましたが、行きたかったなあという思いはずっとありました。でも、この思いは20歳の時に晴れました。両親に日光旅行をプレゼントしたのです。このことは、いまだに自分の誇れることだと思っています。お袋が喜んでくれてねえ、のちに母親が私に対する感謝の気持ちとして、土地を譲ってくれました。

高校には行きたかったけど、夢叶わず、三軒茶屋の八百屋に働きに出ました。兄貴たちは、軍需工場に通っていました。私は客に頭を下げる商売がどうにも合わず、1年間働きましたが無理でした。18歳にな

るのを待って、「味の素」に入社しました。そして、なんと68歳までの50年間、勤め上げることになりました。会社員になってからの50年は、またあとでお話しましょう。

◆戦争中の思い出は

とにかく食べるものがなかったです。何にでもサツマイモを混ぜて食べていたような気がします。

周りには、疎開の人達が多かったです。父は、東京から買出しに来る人に、私らの食糧まで売ってしまうほど優しかったのを覚えています。欲張りな農家の人もいて、食糧を売るのに、金銭の他に物まで要求する人もいましたが、父からは「可哀想なことをしてはいけない」と教えられました。

ある時、私は東京から来た人から「ジャガイモと自分の時計を交換してください」と言われ、一生懸命にジャガイモを掘りました。重たいイモを持って行ったのですが、結局その人とは会えなかったという記憶があります。

防空壕は、上作のダイハツ店のところがありました。三田家や石井家は横穴式でコの字型に掘りました。子どもながらに掘るのを手伝いましたよ。家族全員で防空壕に逃げるということはなかったような気がします。なぜか1人は家に残って家を守っていたと思います。学校で勉強した記憶はあまりないのに、空襲があると家や防空壕に

飛び込むという、この記憶だけはありますよ。

B29は見たことがありませんが、終戦の年の5月の焼夷弾攻撃は覚えています。8月の玉音放送は、子どもだったんですねえ、平瀬川で夢中で泳いでいて聞いていません。

戦後は国民学校から制度が変わり、先生が足りなくて学校側も大変だったようです。中学1年のときの担任が当時大学4年生で、学生服を着た代用教員でした。半年経ったら、先生は学生服から普通の服に変わりました。

昭和28年頃まで食糧難でしたから、物や食糧の大切は身に沁みてわかっています。

◆当時の生活の様子は

どの家も鶏を飼っていました。産んだ卵や最後にさばいた鶏肉は、自分たちの食料にしました。昼間は庭で放し飼いにして、夜は鶏小屋に入れてました。近所では、子牛を飼って、1～2年育てて売るとい畜産業をしている家もありましたが、うちは牛を飼っても畜産はしていませんでした。馬は、上作延で1軒の運送屋だけが飼っていました。まあ、猫や犬なら普通に家いましたね。

魚釣りは平瀬川でしていました。夏の夕方に、鰻や小魚、食用カエルを釣りました。アマガエルをエサにすると、大きな食用カエルが釣れてねえ。赤カエルはスズメの肉

のようで、モモ肉が美味しかったですよ。イナゴも食べました。あの頃は貴重なタンパク源でしたよ。

平瀬川の氾濫は、いつも、今の国道246の下まで、浸水してひどかったようです。うちも1度だけ、水が庭まで押し寄せたことがあります。しかし、戦争の恐さに比べたら、どうっていうことはなかったですね。

親戚に海苔師がいて、川崎大師のほうへアサリを採りに行きました。昭和30年頃には公害で採れなくなりましたが、かなりの量が採れたんですよ。

当時の商店は、味噌や醤油、砂糖などを売る関本屋という店が1軒あるだけでした。肉類は、鶏を飼って自給自足、魚類は溝口からリヤカーで行商人が来ました。着物類もリヤカーで売りに来てた記憶があります。でも、私の場合はすべて兄貴たちのお古で、新しい服を着た記憶はないなあ。

電気はすでに子どもの頃から家についていました。いわゆる裸電球です。

水道は、昭和28年か29年頃に引かれたと思います。このへんは、井戸水でしたが、「高台、赤土、浅過ぎ」の悪条件であまり水質が良くありませんでした。この井戸水を使っただけの風呂焚きがとにかく大変でした。つるべから、大きなバケツに水を汲んで何回も風呂まで運ぶのです。五右衛門風呂ではありませんが、マキで焚きました。土仕事などの後の体を洗いますから、お湯がす

ぐ汚れてしまい、一番最後の人はもはや、お湯が真っ黒で気持ち悪かったなあ(笑)。風呂釜が壊れて水が漏ると、物のない時代なので簡単に買い換えることもできません。子どもたちは親から「おい、山から粘土を取って来い」と言われて、粘土で塞ぎました。

家の間取りは小さくて、2間に6人兄弟が寝てました。小さいときは、兄貴と頭と足とを交互にして寝てました。

◆祭りの様子は

当時の楽しみは、なんとといっても、お祭りでした。

以前は、夏祭りの日にちは9月25日と決まっていたのですが、今は土日に合わせるので前後します。神社が神明神社と赤城神社がありますので、神輿は町会が管理しています。今年、初めて神輿を担いだのですが、いやあ、もうちょっと無理ですね。

昔は青年団や消防団が参加して、神社によしず(簾のようなもの)を張って田舎芝居をしました。予算の関係であまり売れない芸能人も呼びましたっけ。昔の方がなんだか祭りらしかったねえ。

正月は地元の神社に行ったけど、大きくなったら明治神宮などにもお参りに行きました。

農家のお雑煮は野菜もの多くて、現代のような贅沢な食材は入ってなかったです。夜中の2時とか3時に起こされて、餅つき

が始まるんです。そして昼間は普通に働くという正月だったから、生活もそれだけ大変だったということですね。

秋はお月見を楽しみました。団子や柿が食べられるのが嬉しかったね。中秋の名月のときに、よその家の軒先に飾ってあるそれらを失敬しましたが、その家の大人たちもわかってくれていたみたいでしたよ。

◆18歳からの会社員の道はいかがでしたか

私には50年間、1つの会社「味の素」に勤務したサラリーマン時代があります。自宅から会社のある鈴木町までは、津田山駅から川崎駅経由の電車通勤でした。最初は塩酸でグルタミンソーダを作っていましたが、時代とともに製法が変わり、そのうち実験現場へ配置換えになりました。その後、中央研究所を経て、40歳代で本社勤務になりました。会社には朝7時前には着いて、無我夢中で働きました。

結婚は26歳のときです。当時、兄たちの結婚が立て続けにあり、反対されましたが、親には迷惑をかけないと、川崎労働会館で3万円くらいで式をあげました。3歳下の妻とは職場結婚で、妻の実家は高津小学校のそばです。結婚した年の12月に妻は専業主婦になりましたが、私は3交代制で働いてました。2人の子どもに恵まれ、上は男の子で、下は女の子でした。今や、

孫の1人が来月結婚、もう1人は就職が決まりました。

45歳くらいのときが一番、会社員としての人生が充実していましたね。労務管理ではいろいろな経験をさせてもらい、営業・経理以外はすべての仕事に就きました。採用試験の面接官としては、600人以上と面接をしています。

昭和60年頃は日本の景気が良すぎて、工業高校など就職先に食品会社など目もくれない時代もありました。

味の素の「ほんだし」などの新製品開発の時は本当に大変で、夜も自宅に帰れないことがありました。

今はいろいろと機械化されており、川崎工場など2,000人以上が働いていたのに、自動化による人員削減で300人以下に減少しました。

バラエティーに富んだ人生でした。

◆現在の地元とのつながりは

60歳でサラリーマンを退職して、好き勝手に生きてみようと思ったのですが、町会の役員を頼まれた時、そろそろ恩返しの時かなと思いました。50歳代の頃から、丈夫なうちに地元に戻元したいという気持ちはありませんから。

この地で生まれ、色々な人と出会い、繋がり、自分の財産になったと思います。

役員として心残りなのは、住居表示の問題です。もっと改正したかったなあと思います。

また、地元の活動としては、上作延小学校の4年生に「平瀬川の三堰維持記念碑の歴史」を教えて10年になります。小学校の先生から「4年生は水の授業があるし、平瀬川の記念碑についても聞きたい」と言われたことがきっかけで、「平瀬川の昔話で良いなら」と引き受けました。

それからは、私も自分なりに勉強をしました。今は6年生に「第二次世界大戦の空襲を受けた体験」も語り、これは3年目になります。

子どもたちからのお礼や質問など感想文集を先生が送ってくれます。これが楽しくってねえ。1人1人のすべての質問に答えています。授業も1コマ45分で終らずに、質問タイムで、もう1コマ延長です。実際の授業で、子どもとの質問のやり取りも面白いですよ。上作延小学校には、焼夷弾のかけらがあるので、最近は興味津々で聞きに来る保護者もいます。

◆若い人へのメッセージはありますか

人生80年生きてくるといろいろなことがあります。人生で勉強する機会はいつかはあると思います。お金をもらって勉強させてくれた会社に、私は感謝しています。

現代では難しいかもしれませんが。ありがたい人生を歩んできたと思います。

私の小さい頃は、本当に家に余裕がなかったし、中学時代には、もっといろいろとやりたかったと後悔がありました。その思いは大人になってから、いろいろなことに挑戦するパワーの源になりました。60歳から、スキーや登山を始めました。箱根の金時山には60回以上登り、その他にも高尾山や丹沢にもよく登りました。70歳まではスキーを楽しみ、75歳の時には、スイスにも行きました。体重も20歳から80歳の今でも55キロから57キロをキープしています。

戦争を経験して、今思うのは本当に日本が平和になって良かったことです。子どもの頃に戦争のような思いをした人は、私同様トラウマのようになっていると思います。だから、現代でも大災害にあった子どもたちはこれからそのトラウマとともに生きていくのは大変だと思います。

最後に孫へのメッセージとして色紙に書いた言葉があります。

1. 人に迷惑をかけるな
 2. 自分の行動に責任を持つ
 3. 友だちを1人でも多く持つ
- 以上です。

(平成27年10月6日実施)